

事務事業評価シート

評価実施年度：平成29年度

上位の施策名称	施策Ⅲ-4-1 多様な自然の保全
---------	---------------------

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	林業課長 前島 和弘	電話番号	0852-22-5167
----------	------------	------	--------------

事務事業の名称	水と緑の森づくり事業		
目的	(1) 対象	県民	
	(2) 意図	荒廃森林を緑豊かな森へ再生させるとともに、緑豊かな森づくりへの県民参加を促進し、森林の様々な恵みを受容してもらう。	
事業概要	荒廃森林を緑豊かな森へ再生するため、水と緑の森づくり税を財源として不要木の伐採や広葉樹の植栽等に対し交付金を交付する。		

2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
1	指標名	目標値		8,450.0	9,050.0	9,650.0	10,250.0	ha
	式・定義	取組目標値						
		再生の森事業により不要木伐採を実施した森林面積	実績値	7,850.2	8,418.9			
		達成率	-	99.7	-	-	-	
2	指標名	目標値						
	式・定義	取組目標値						
		実績値						
		達成率	-	-	-	-	-	%

3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費 (b) (千円)	121,354	133,467
うち一般財源 (千円)	0	0

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

Ⅰ期対策期間(H17~H21)、Ⅱ期対策期間(H22~H26)ともに目標とする面積の整備が進んでおり、荒廃した森林の再生を行うことができた。平成28年度は569haの不要木伐採を行い、目標である600ha/年を下回ったものの、Ⅲ期対策期間(H27~H31)の2か年の合計面積は1,222haとなった。また、予算枠を拡大した竹林対策において、20haの竹林整備が実施できた。

6. 成果があったこと（改善されたこと）

荒廃森林の再生が進んでいる。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

①困っている「状況」
平成17年度より荒廃森林の整備に取り組んでおり、少しずつ整備が進んできているが、間伐遅れの人工林や拡大竹林、松くい虫被害跡地など荒廃森林は県全体で105千haあると推計される。これは県の民有林面積の約2割に相当し、整備が追いついていない状況にある。

②困っている状況が発生している「原因」

- 森林所有者の高齢化による経営意欲の減退や自力での整備が困難。
- 森林所有者の不在化により森林境界が不明確になっている森林の増加。
- 森林所有者に代わって森林整備を請け負う森林組合等の労務が不足。
- 拡大竹林については小規模ながら至る所に多数分散している。
- 上記原因により、県と森林所有者が締結する「再生の森協定書」の締結に時間を要する。

③原因を解消するための「課題」

- 森林所有者の森林整備に対する意欲向上と、森林境界の明確化が課題。
- 国の補助事業との棲み分けと着実な実施が課題。
- 竹林は、複数年継続して整備を実施する必要がある。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

引き続き荒廃した森林を緑豊かな森林へ再生させる。
具体的には以下のように取り組んでいく。

- 広報等による事業のPRを行い、森林所有者への働きかけを行いながら事業実施への意欲を高める。
- 再生の森事業にある「森林境界確認」などのメニューを活用し、協定締結に必要な経費の一部を支援しながら協定締結を促進する。
- 松くい虫被害跡地や竹林については、抵抗性松や広葉樹の植栽により樹種転換を図るなどとして、植栽後の整備も継続して実施していく。

・国において「森林環境税（仮称）」の創設に向けた検討が進められており、新税による森林整備対策の枠組みが明らかになった段階で、水と緑の森づくり事業メニューの点検や今後の進め方を検討したい。